

令和 2 年度 ACTR

分類 番号	A7	取組 名称	海と森の京都の融合による文化観光拠点の形成 ー舞鶴市東舞鶴地区と綾部市上林地区の文化資源の発掘と活用ー
研究代表者所属・職名：		文学部・教授	氏名： 横内 裕人
研究担当者：			
京都府立大学（東昇、岸泰子） 外部分担者・協力者（岩見修一、岡坂敬子、小室智子）			
主な連携機関（所在市町村、機関（部署）名）			
舞鶴市（包括連携協定）、舞鶴市郷土資料館、京都府綾部市教育委員会、奥上林地区自治連合会			
【研究活動の要約】			
綾部では、君尾山光明寺大般若経、子安堂、君尾山参詣道を踏査し、君尾山近隣の坂尾呂神社の実測調査、室尾谷神社、庄地区仏像の確認調査を行いました。また上林小学校出前授業で光明寺や上林禅寺の文化財を調査しました。 舞鶴では、舞鶴地方史研究会・舞鶴郷土資料館と共同で古文書調査を実施し、舞鶴地域の歴史の探求や世代間交流を図り、市内の大庄屋文書を整理しました。これらの文化遺産の調査を通して、舞鶴地方史研究会との世代間交流を行い、調査成果を京都府立丹後郷土資料館で展示しました。			
【研究活動の成果】			
綾部では、光明寺大般若経が南北朝時代にさかのぼる貴重な経典であることが判明しました。境内建造物調査が完了するとともに、参詣道の復元に着手しました。また坂尾呂神社の調査は、京都府の文化財保護に活かされました。こうした成果は、『文化遺産叢書』20号で公表します。上林小学校の出前授業では、児童が上林禅寺などに出かけ、永勝寺保育園について地域の旁々に聞き取り調査を行いました。その成果は、地元文化祭「上林フェスティバル」で発表され、好評を博しました。 舞鶴では、江戸時代の田辺藩大庄屋木船家文書の調査により、木船家が管轄した東舞鶴の与保呂組と、綾部の上林・君尾山との山の資源に関する交流をあきらかにしました。18世紀与保呂組の住人が君尾山へ木挽き稼を行ない、また小浜城下の大手橋を建設するための材木を、与保呂組が上林から舞鶴の浜へ輸送しています。一方で、山の資源をめぐるで与保呂組と上林は対立し、藩を巻き込む騒動に発展しました。江戸時代の、豊かな資源は両地域の深い交流の上に維持されていました。			
【研究成果の還元】			
R2. 11. 3 上林フェスティバル 上林小・中学校 参加者約 100 名 ※奥上林公民館で開催予定だった「奥上林公民館大会・アクター成果報告会」はコロナのため中止 R3. 2. 20～4. 4 企画展「ふるさとミュージアムコレクション」調査成果を展示、京都府立丹後郷土資料館、「フィールドレポート」1000部作成、府民へ配布 R3. 3. 31 文化遺産叢書 20『綾部地域における文化資源の発掘と継承ー君尾山光明寺文化財調査報告』刊行（府下の図書館で閲覧可能）			
【お問い合わせ先】 文学部 横内研究室 教授 横内 裕人 Tel: 075-703-5256 E-mail: yokouchi@kpu.ac.jp			

参考（イメージ図、活動写真等）
綾部市立上林小学校での出前授業



舞鶴地方史研究会との古文書調査

